

令和元年6月20日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03488

研究課題名（和文）東南アジア史の統合的編年プラットフォームの構築：「長い12・13世紀」を中心に

研究課題名（英文）Towards the Construction of Integrated Chronological Platform for Southeast Asian History during the "Long 12th and 13th Centuries"

研究代表者

青山 亨（Aoyama, Toru）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：90274810

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,500,000円

研究成果の概要（和文）：東南アジア史の12・13世紀前後の時代は、「インド化」した諸国家が最盛期を迎える一方で、上座仏教やイスラームを奉じる王国が出現し、現在の東南アジア地域の文化的な特徴や国民国家の原型が出揃った歴史的な転換期である。考古学、美術史、建築史で利用できる物質文化的な資料も飛躍的に増加した。

本研究では、物質文化研究の専門家と史料（現地の刻文・写本及び域外の漢籍等）研究の専門家からなる研究チームを構成し、地域横断的な臨地調査に基づき、分野横断的な専門的知見の交換を行い、得られたデータを議論するための共通の編年プラットフォームを構築したうえで、具体的な事例分析を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

物質文化の研究とテキストに基づく史料研究との間での対話が不十分であり、研究が十分に進展してこなかった大きな要因は、相対年代を主とする物質文化研究と絶対年代を主とする史料研究の間での対話を可能とする共通の編年プラットフォームが存在していなかったからである。本研究では、数次の共同の臨地調査を積み重ねるなかで具体的な遺跡や遺物を対象として、研究者が分野横断的な知見を交換することで、相対年代と絶対年代にあるギャップを架橋する方策を工夫し、議論のための対話を可能とする共通の編年プラットフォームの構築を行ったところに意義がある。

研究成果の概要（英文）：The era around the 12th and 13th centuries of Southeast Asian History is a historical turning point in that "Indianized" kingdoms reached their height on one hand and kingdoms adhered to Theravada Buddhism and Islam began emerging on the other, thus presenting cultural traits of modern Southeast Asia and the archetypes of nation states. The number of findings regarding material culture that can be utilized in archaeology, art history and architecture history also rises.

In this project, a team of specialists from the material cultural studies and text studies (including local inscriptions and manuscripts, foreign records such as Chinese travelogues) conducted cross-regional field works and exchanged ideas across disciplines. The team then constructed a common chronological platform to discuss the obtained data and conducted case analyses.

研究分野：東南アジア古代史

キーワード：東南アジア古代史 東南アジア考古学 東南アジア建築史 東南アジア美術史 東南アジア碑文研究
東南アジア仏教美術史

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

東南アジア史の 12・13 世紀を中心としてその前後を含めた時代は、いわゆる「インド化」した諸国家が最盛期を迎える一方で、上座仏教やイスラームによる王権原理の再編が始まり、現在の東南アジア地域の文化的な特徴や主要な国民国家の原型が出揃ったという意味で、歴史的な転換期である。それ以前の時代に比べると考古学、美術史、建築史で利用できる資料が飛躍的に増加している。しかし、これまで、これらの物質文化の研究とテキスト(現地の刻文・写本及び域外の漢籍等)に基づく史料研究との間での対話が不十分であり、研究が十分に進展していないことが課題であった。

2. 研究の目的

上記と同様の問題意識をもって実施された 2013~2015 年度科学研究費補助金・基盤研究(B)による「東南アジア史における絶対年代と相対年代の統合に関する研究:7~10 世紀を中心に」の研究を引き継ぎ、7 世紀から 13 世紀前後までを対象に、相対年代を主とする物質文化研究と絶対年代を主とする史料研究の間での対話を可能とする共通の編年プラットフォームの確立を目指した。

3. 研究の方法

物質文化研究を中心とする考古学・美術史・建築学の専門家と史料研究を中心とする文献史学・刻文学の専門家からなる文理融合の研究チームを構成し、3 年間にわたって、11 回の研究会を開催し、3 回の海外合同調査を実施した。海外合同調査では、1~2 週間の中核日程における合同調査とその前後の日程での各人の個別調査を行った。カンボジア・ベトナム・ラオスのオケオ時代を中心にした遺跡、スマトラ島の南北に散在するヒンドゥー・仏教遺跡、タイ南部からマレーシアに至るマレー半島の遺跡に加えて、関連する遺物を所蔵する博物館を調査した。これらの活動を通じて、地域横断的に遺跡・遺物を臨地調査し、分野横断的な専門的知見の交換を行い、得られたデータ及び知見の編年プラットフォーム上での位置づけの検討を行った。

4. 研究成果

研究成果の一部は研究成果報告書として刊行するとともに、本科研に関わる研究者が中心となって『アジア仏教美術論集 東南アジア』(2019 年、中央公論美術出版社)を刊行した。また、本科研と連携する東南アジア古代史研究会のウェブサイトにおいて公開したウェブ版年表は、本科研の研究成果を反映しており、編年プラットフォームの基礎となるものである。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 15 件)

深見 純生、ババッド・タナ・ジャウィ研究序説、人間文化研究、査読無、10 巻、2019、175-208

佐藤 桂、ミャンマーにおける木造建築の屋根について、武蔵野大学環境研究所紀要、査読無、8 巻、2019、91-103

田畑 幸嗣、大坪 聖子、横山 未来 他、ラオス南部ワット・プー遺跡群バン・ノンサ遺跡の発掘調査、東南アジア考古学、査読無、38 巻、2018、63-70

西野 範子、青山 亨 他、Nishimura Masanari's Study of the Earliest Known Shipwreck Found in Vietnam、Asian Review of World Histories、査読有、5 巻 2 号、2017、106-122
DOI 10.1163/22879811-12370007

田畑 幸嗣、前近代カンボジアにおける陶器生産、中近世陶磁器の考古学、査読無、5 巻、2017、259-296

[学会発表](計 23 件)

青山 亨、Many images of the seafaring ship in the process of Islamization in Java、

International Symposium: Transformation of Religion as Reflected in Javanese Texts (2), 'Rethinking the Process of Islamization', 2018

深見 純生、10～14 世紀海域東南アジア史研究をふりかえる、東南アジア古代史研究会、2018

田畑 幸嗣、Techno-morphological Approach to the Stoneware Production in Angkor, Society for American Archaeology 83rd Annual Meeting, 2018

杉山 洋、田畑 幸嗣、佐藤 由似、南西諸島出土のクメール陶器と近年のクメール陶器窯の調査結果、東南アジア考古学会大会、2018

佐藤 桂、ミャンマー・ベイタノーの「記念堂」遺構にみられる木造の痕跡について、日本建築学会大会学術講演会、2018

原田 あゆみ、Ryukyu-Maritime Trade through the Asian Sea Lanes, International Symposium: Arts of the Ryukyu Kingdom, 2018

田畑 幸嗣、佐藤 由似、杉山 洋 他、Excavation of the Veal Svay Kiln and Veal Kok Treas Kiln: Research of the Khmer Brown Glazed Stoneware, 2017

原田 あゆみ、ドヴァーラヴァティーにおける法輪建立と王権、東京国立博物館国際シンポジウム「タイの仏教美術と王権」, 2017

佐藤 桂、ミャンマー・シャン州北部ティーボー地域における木造僧院の空間構成、日本建築学会大会学術講演会、2017

田畑 幸嗣、Ceramics Trading Network in Angkor and Post-Angkorian Cambodia, World Archaeological Congress, 2016

佐藤 桂、Cultural heritage value of the Minang houses at Padang in West Sumatra Province, Indonesia, 11th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia (ISAIA), 2016

〔図書〕(計9件)

青山 亨、田畑 幸嗣 他、東京外国語大学、基盤研究(B)「東南アジア史の統合的編年プラットフォームの構築：「長い12・13世紀」を中心に」研究成果報告書、2019、200

青山 亨、深見 純生、田畑 幸嗣、原田 あゆみ、佐藤 桂 他、中央公論美術出版、アジア仏教美術論集 東南アジア、2019、636

原田 あゆみ 他、思文閣出版、琉球船と首里・那覇を描いた絵画史料、2019、160 (132-133)

田畑 幸嗣 他、雄山閣、やきもの：つくる・うごく・つかう、2018、308 (216-228)

青山 亨 他、東洋文庫、State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society, 2017、343 (165-177)

原田 あゆみ 他、九州国立博物館、タイ～仏の国の輝き、2017、272 (12-23, 56-57, 194-207, 214-216, 218-219, 234, 240)

〔その他〕

ホームページ等

東南アジア古代史研究会

<http://www.waseda.jp/assoc-history/>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：深見 純生

ローマ字氏名：(FUKAMI, Sumio)

所属研究機関名：桃山学院大学

部局名：国際教養学部

職名：教授

研究者番号(8桁)：40144555

研究分担者氏名：田畑 幸嗣

ローマ字氏名：(TABATA, Yukitsugu)

所属研究機関名：早稲田大学

部局名：文学学術院

職名：准教授

研究者番号(8桁)：60513546

研究分担者氏名：原田 あゆみ
ローマ字氏名：(HARADA, Ayumi)
所属研究機関名：九州国立博物館
部局名：学芸部文化財課
職名：課長
研究者番号 (8 桁) : 20416556

研究分担者氏名：佐藤 桂
ローマ字氏名：(SATO, Katsura)
所属研究機関名：武蔵野大学
部局名：環境研究所
職名：客員研究員
研究者番号 (8 桁) : 80454198

(2)研究協力者

研究協力者氏名：肥塚 隆
ローマ字氏名：(KOEZUKA, Takashi)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。